

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

オーストラリア シドニー日本人国際学校

目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯
- ④ 実際の取り組み
- ⑤ 苦労した（している）こと
- ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
- ⑦ 今後への課題

①学校の規模や子どもたちの実態

- 全校生徒・児童の人数： 国際学級 Kindy - Year 6：133名
日本人学級小学部 Y1 - Y6： 73名
日本人学級中学部 Y7 - Y9： 14名

計220名（5月11日現在）

- 学校概要：シドニー中心部より北方約30KM程離れた郊外に立地。国立公園に隣接し、自然豊かで緑に囲まれた環境。14エーカーの広大な敷地の中に、200m陸上トラック、サッカー場、体育館等を有する。
全体の9割の生徒・児童がスクールバスで通学する。
- 学校の特徴：国際学級（NSW州のカリキュラム）と日本人学級（文部科学省カリキュラム）を併設し、全ての国籍の子どもたちを受け入れ、教職員も多様性に富んだ環境。
概算で3割が日本からの駐在員家庭、
5割が日本とオーストラリアなどの国際結婚家庭、
2割がその他の国籍の家庭。

② 現地の新型コロナウイルス事情

- 2月1日、豪州政府は、中国本土にいた外国人の入国制限措置を発表。徐々に対象国を拡大し、3月20日から現在に至るまで（5月11日現在）、全世界からの外国人の入国制限を取っている。
豪州人、豪州永住者及びその家族は、NSW州に戻る場合、ホテルなどの指定施設にて14日間の自己隔離が義務付けられている。
- 3月23日より徐々に国内で移動が厳しく制限され、生活必需品の買い物やエクササイズ、通院、仕事などを除き外出は原則禁止（ロックダウン）。家族以外では3人以上で集まることも禁じられ、シドニーで違反した場合、最大で罰金11,000豪ドル（約75万円）が課せられる。
- ロックダウンの成果が出ており、NSW州では1日の感染者数が3月のピーク時で212人いたのが、5月11日現在一桁台になっており、今後も段階的に緩和措置が今後取られていく予定。

③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければ いけなくなった経緯

- 多人数の集会の禁止。毎週行っているアセンブリー、入学式・卒業式などの式典、帰宅の際のバス乗車前の整列など、集団で集まる際への対応を強いられた。
- 社会的距離1.5mの推奨。集会や教室内、休み時間に学校内でも1.5mの社会的距離を取る事が推奨された。
- NSW州政府によるオンライン授業の推奨。学校自体は運営するが、主に医療従事者など最前線でサービスを行う家庭の子弟や家庭での学習が困難な子ども達の受け入れにとどめる。
実際、公立校でも1割程度の児童生徒の登校にとどまった。

④ 実際の取り組み

- 本校は、日本人学校特有のスクールホリデーを導入しているため、3月21日から4月22日は、秋季休業であった。丁度政府の規制が強化された前の週より秋季休業が始まったため、休業期間をオンライン授業の準備に充てることが出来た。

【式典・集会】

入学式（4月27日開催）

- ・ 社会的距離を保った座席の配置
- ・ 小学部と中学部別の開催、来賓・在校生・保護者の出席は無し、式の内容も簡素化
- ・ 式の最中は、保護者は車で待機。通常は各クラスごとにグループ写真を撮影していたが、今年は式の終わりに家族毎個別に記念写真を撮影した。
- ・ 新入生は入学式の後、翌日からはオンライン授業を開始。

【オンライン授業】

- 約5週間の秋休み明けの4月23日～5月8日までの12日間、オンライン授業を実施。
- 4月22日、時間帯を別けて保護者に来校してもらい、「教科書」「ワークシート」「一人一台のiPad」を全児童生徒に配付。
 - iPadには利便性や学習効率を上げるために、「Google Classroom」「ロイロノート」「NHK for School」「各種勉強アプリ」を既にインストールして家庭に配付。
 - 貸与に際して、貸与規約を作成し、保護者のサインを貰った。

- メインの利用アプリは、Zoom／Google Classroom／ロイロノート
 - 朝の会や各教科の授業においてZOOMを使用（各学年によって回数や使用の仕方は異なる）。
 - また、Google Classroomを使用して、各授業の課題指示を行った。
 - ロイロノートにて課題のノートやプリントを写真に撮り提出した。
音楽などの教科ではビデオの提出も活用した。
ロイロノート独自の添削機能で教師からの迅速な回答やコメントを返信することが可能であった。
 - 教科によって、教師がビデオコンテンツを作りオンデマンド授業を行った。

- 1 割の子ども達が登校

- 1 クラスに登校してきた子どもたちの教室として割り当て、専任の教員を配置した。
- 各児童生はヘッドフォンを持参し、オンラインで授業に参加した。
- ゲートで一人一人検温を行ってから教室に移動した。
- タックショップと呼ばれる学校カンティーンはクローズとし、各自弁当持参とした。
- また、社会的距離を保てる机の配置とした。
- 遊具は、当初はクローズしていたが、消毒をして開放した。

⑤ 苦労した（している）こと

- 派遣教員が入国出来なくなり、人員の確保、配置に苦労している。
- オンライン授業が初めての試みであったため、操作方法の習得やコンテンツの作成に多大な時間を費やした。NSW州の他校が見切り発車でオンライン授業を強いられる中、本校は、ちょうど秋季休業期間であったため、準備を入念に行うことが出来たが、休み返上で業務に追われた。
- オンライン授業開始の前に、各家庭にGoogle Formを利用してアンケートを取り、家庭でのインターネット環境やデバイスの数を調査した。それに基づいてPCやタブレットを購入し、該当の全児童生徒に行き渡るようにした。
- 生徒・児童の集中力を保つために、その都度学習内容や量を調節した。午前中は時間割の時間に沿って授業を行い、午後は図工・体育・音楽などの課題を個人で行う時間に充てた。
- 副教材については、航空便による配達が新学期に間に合わなかった。
⇒小学部については光文社の計らいでオンラインでドリルのPDFをダウンロードできたので、それをコピーして配付した。

⑥ 喜びを感じた（感じている）こと

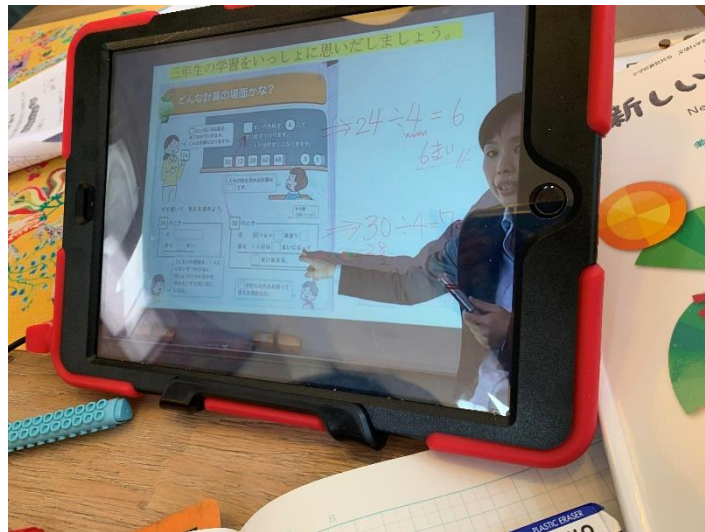
- この状況下でも子どもたちが友達とオンラインを通してふれ合い、学習に励み、担当教師とつながり、また明日へ向けての目標を持つことができるよう、本校として今の状況下で最大限できることは何かを考えて、準備をした。
- オンライン授業が始めるまでは、保護者からの不安の声や学費軽減などの声が聞こえたが、入念に準備したオンライン授業を行う事で、保護者から感謝の声が聞かれるようになり、学費軽減の声も無くなった。
- また、IT化が一気に加速したことで、教師・保護者・児童生徒の間で理解が広まり、今後の授業でもノートパソコンやタブレット、ビデオコンテンツなどを使用した学習を取り入れ易くなるという利点が生まれた。

⑦ 今後への課題

- 5月11日より学校を全面的に再開。
- 子どもたちが学校に戻った後に、安全面・衛生面を徹底しつつ、どのように子どもたちの体と心の健康を保つか、質を落とさない教育を与えられるかが課題。
- 本校の子ども達は、9割が通常通学バスによる登校をしているが、全面再開の前に、今後のバス利用について調査を行った。
⇒当面は、送迎の家庭が増えると予想されるため、
「ゲートでの受け渡し」「検温」「保護者同士も社会的距離を保つ事を促す」など、綿密なルールを決め、実施している。



入学式



担任自作の算数の動画



登校時の
検温風景



社会的距離をあけることへのお願い



教科書と自作教材例(4年)



登校した子供たちの様子



国際学級の日本語
の授業の1コマ



国際学級Y5
Zoom



日本人学級Y4
Zoom